

競技かるたの聖地・近江神宮もある百人一首ゆかりの地・滋賀 全 1,022 首から選ばれた「令和版 近江百人一首」が完成 ～2 月 15 日(日) 13:30～15:30 近江神宮 近江勸学館にて「令和版近江百人一首かるた大会」開催～

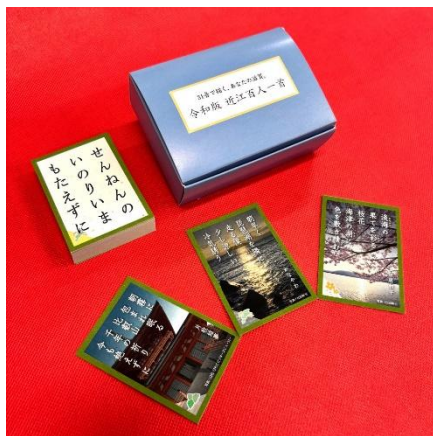
1,000 年以上も前に詠まれた歌が現代に伝わる「小倉百人一首」、その第一首を詠んだ天智天皇をまつ近江神宮（大津市）がある滋賀県は、令和の滋賀の魅力を再発見し、短歌を通して後世に伝えるため、「令和版 近江百人一首」を選定しました。1 月 13 日から県 HP にて掲出します。

「令和版 近江百人一首」は、百人一首とゆかりの深い滋賀の魅力を短歌の 31 音にのせて後世に伝えることを目的としています。滋賀の風景、滋賀での思い出や日常の一コマなどをテーマに、全国から募集したところ、応募数は 1,022 首にものぼりました。そのなかから、特別審査員として滋賀県在住の作家・宮島未奈さん、全体監修として歌人・高田 ほのかさんにご協力をいただきながら、滋賀文学会を選考委員として百首が選定されました。

滋賀県では、この「令和版 近江百人一首」をきっかけに、滋賀の自然や暮らしの風景を全国に発信し、滋賀への愛着を深めていただくとともに、かるたの聖地として、短歌文化の発信・継承にも努めます。

なお、令和 8 年 2 月 15 日（日）には、競技かるたの聖地として知られる近江神宮 近江勸学館（大津市）で、このかるたを使った「令和版近江百人一首かるた大会」も開催します。

令和版 近江百人一首



「令和版 近江百人一首」の概要

滋賀の風景や思い出、日常の一コマなどをテーマに、全国から 461 名・1,022 首の短歌が寄せられました。

応募期間：令和 7 年 8 月 1 日（金）～9 月 30 日（火）

兼題：滋賀の風景、滋賀での思い出、滋賀の魅力 等
滋賀をイメージした作品

応募者数：461 名

応募作品数：1,022 首

選考委員：滋賀文学会

特別審査員：宮島 未奈さん

全体監修：高田 ほのかさん



宮島 未奈さん



高田 ほのかさん

特別審査員コメントと作者の思い（特別審査員賞の3作品より）

特別審査員を務めた宮島 未奈さんは、「皆さんの歌を通して、滋賀にはたくさんの魅力があるのだと改めて気付かされました。名所旧跡はもちろん、日常にひそむきらめきにも胸を打たれ、貴重な経験となりました」と総評しています。

つゆあけの風と遊ぶや外輪船 水面の色もあざやかになり 師岡 秀雄さん



【宮島 未奈さん コメント】

からっとした空気に映える赤い外輪がありありと浮かびました。季節ごとに違った琵琶湖を楽しめるミシガンの魅力がよく表現されています。

【作者の思い・背景】

待望の琵琶湖への旅。湖上を進む外輪船は、風と戯れるように軽やかでした。水面は鮮やかに輝き、夏の光を映して心と同様に揺れていました。

ミシガン＊1982(昭和57)年4月29日に就航した、びわ湖を代表する遊覧船

繭躍る鍋に向いし糸取女 手繰り寄せたる一本の糸 高田 チヅさん



【宮島 未奈さん コメント】

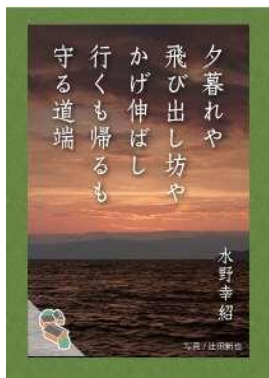
糸取りの生き生きとした光景から、糸取りの歴史に思いを馳せました。江戸時代にも現代にも通じる歌なのが良かったです。

【作者の思い・背景】

賤ヶ岳の麓、琴糸の西山地区、鍋に湯を沸し、汗を流し一本の糸を手繰り寄せる辛抱強さ、たくさんの糸を撚り合せる技術で琴糸の美しい音色が醸し出されます。

賤ヶ岳の麓 糸の西山地区＊戦国時代の有名な合戦地・賤ヶ岳がある長浜市木之本町では、手作業による良質な生糸生産が行われ、楽器糸づくりが盛んに行われてきました

夕暮れや飛び出し坊やかげ伸ばし 行くも帰るも守る道端 水野 幸紹さん



【宮島 未奈さん コメント】

飛び出し坊やが存在する日常風景がかけがえのないものとして感じられました。雨の日も風の日もご苦労さまとねぎらいたくになります。

【作者の思い・背景】

滋賀県といえば飛び出し坊や。黄昏時、道路脇の飛び出し坊やの影が長く伸びる近江路を思いながら作りました。

飛び出し坊や＊「飛び出し坊や」という子どもが走り出す格好を描いた看板は、子どもたちの飛び出し事故防止を目的とし、滋賀県東近江市で誕生。現在では全国各地に設置され、交通安全のシンボルとして広く親しまれています

「令和版 近江百人一首」の入手方法

令和8年2月15日（日）に開催するかるた大会の参加者に配布するとともに、県HPにかるたのデータを掲載しています。

<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkageizyutsu/>

「令和版近江百人一首かるた大会」開催概要

競技かるたの聖地として知られる大津市の近江神宮 近江勸学館を会場に、「令和版 近江百人一首」を用いたかるた大会を開催します。

日 時：令和8年2月15日（日）13：30～15：30（予定）

場 所：近江神宮 近江勸学館

定 員：40名

その他：参加者には、「令和版 近江百人一首」をプレゼントします。

競技かるたの聖地・近江神宮

滋賀県は、百人一首と歴史的・文化的に深い関わりを持つ地です。

「小倉百人一首」の第一首「秋の田の かりほの庵の 苫を荒み わが衣手は 露にぬれつつ」は、天智天皇が詠んだ歌で、大津市にある近江神宮は、その天智天皇を御祭神としてまつています。

近江神宮は、競技かるたの聖地としても知られています。まんが・アニメ・映画・ドラマで人気を博した「ちはやふる」により、全国のあらゆる世代にその名が知れ渡りました。ここでは毎年、全国の高校生が熱戦を繰り広げる全国高等学校かるた選手権大会や、名人位・クイーン位をはじめとする日本一を決める大会が開催されます。

